

仲間意識と連帯感を高め、スポーツの喜びを



4月21日(日)に(公財)町スポーツ連盟および町スポーツ少年団の主催で「養老町スポーツ少年団結団式」が開催され、町内すべてのスポーツ少年団が参加し、成長と結束を誓いました。町スポーツ少年団は、仲間意識と連帯感を高めるとともに、スポーツの喜びを提供することで、地域に根付いたものとなることを目指して活動しています。式では5人の代表者により、スポーツをとおして健康な身体と心を養い、友人の輪や交流を広げ、平和な世界を目指して、人間として成長していくことが宣誓されました。

同時に三世代スポーツ交流会も開催され、参加者はモルック、ペタンク、バルシューレの体験をとおして仲を深めました。

スタジアムでの一体感を子どもたちに



6月8日(土)に開催されるF C岐阜のホームゲームが、養老町のホームタウンデーおよびOK Bサンクスマッチとして行われることを記念し、4月17日(水)に株式会社大垣共立銀行より特別招待券100枚を寄附いただきました。寄附は今回で9回目となり、同行の寛雅樹常務取締役は「F C岐阜は今シーズン得点数がかなり増え、順位も優勝を狙える位置です。来場者数もJ 2リーグと比べても遜色なく、魅力あるチームだと思います」と話しました。いただいたチケットは、町内のサッカー少年団や中学校・高校のサッカー部員などに配布され、子どもたちに感動と笑顔を届けます。

F C岐阜は県下42市町村すべてがスポンサーとなっている唯一のクラブチームです。一緒にF C岐阜を応援し、これからの活躍に期待しましょう。

地域に寄り添う消防団



地域防災力の向上や消防団員の確保などに積極的に取り組み、多大な貢献をしている消防団および消防本部を対象として、日々の活動を称えるために令和5年度に創設された「消防団地域貢献表彰」(総務大臣表彰)を町消防団、町、町消防本部が受表彰したことを報告するため、伊藤勝則消防団長が4月19日(金)に川地憲元町長を訪問しました。

伊藤消防団長は「地域防災力の向上に努め、地域行事へ積極的に参加することで、地域に寄り添った消防団であり続けたいです。今後も、いざというときに地域を守ることができるよう、体制を維持していくために人員確保に尽力していきます」と話しました。

生涯を教育一途に捧げる



教育分野の発展に対する尽力とその功績が認められ、満88歳に達した機会に瑞宝双光章を受章した水谷田鶴子さんが4月23日(火)に川地憲元町長を訪問し、その報告をしました。水谷さんは昭和31年から平成8年まで長年にわたり教職を努め、本町では笠郷小学校・池辺小学校・養老小学校・高田中学校・養北小学校に在籍しました。平成5年からは小学校長に就任し、地域に開かれた学校づくりに尽力しました。

水谷さんは「教員生活は、決して楽なものではなく苦勞の連続でしたが、それを上回る喜びのある毎日でした。今は同年代で集まり、音楽を楽しむ生活を送っています」と昔を振り返りながら話しました。